

《学校経営方針》

本校がめざす教育

1 学校教育目標 つながりを大切にし、学習や生活を高め合う子の育成

2 経営方針

社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となってきた。このような、予測困難な変化に子どもたち一人一人が受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要である。今、学校教育に求められているのは、まさしく、「生きる力」の育成であり、「人間力」の育成である。

人間は、「ヒト・モノ・コト」とのつながりの中で生活している。ヒト（友達、先生、家族、地域の方など）とのつながり、モノ（教材・教具、学校施設・設備など）とのつながり、コト（学校行事、地域行事など）とのつながりを大切にし、学習や生活を高め合う子を育成していく。また、今学習していることを既習事項とつなげて考えたり、教科間を機能的につなげて教科横断的な思考力を高めたりすることのできる子どもを育てていく。学んだことを生活の場で生かしたり、生活体験を学びに生かしたりする力の育成も大切である。学校での学びが子どもたちの将来につながっていくことを強く意識しながら、教育活動を推進していく。さらに、小学校間のつながりや、小学校と中学校とのつながりをより充実したものとし、義務教育9年間で視野に入れながら、自立した子どもの育成を目指していく。

3 めざす学校像

- ・子どもの安全安心を保障する学校
- ・「活力」と「規律」、「優しさ」と「厳しさ」のある学校
- ・地域や家庭とのつながりを大切にする学校

4 めざす児童像

- ・将来に夢や目標をもち、夢や目標の実現に向け、努力する子【**挑む**】
- ・スモールステップで努力し、失敗しても挑み続ける子【**あきらめない**】
- ・頑張っている友を認めるとともに、自分も周りに支えられていることを自覚し、感謝の気持ちをもつことのできる子【**支え合う**】

5 めざす教師像

- ・教育に対する熱い思いをもつ教師
- ・個々の資質能力を高めるとともに組織力の向上に邁進する教師
- ・子ども、保護者、地域とともに歩む教師

6 教育活動の重点

(1) 互恵的な関わりのある教育活動を推進する。

○みんなで学び合い、教科等の本質的な価値に迫ろうとする協同的・互恵的な学びを追究する。

- 「見通す・学び合う・まとめる・振り返る」の学習過程を大切にした教育活動の充実を図る。
 - 子どもたちのつまずきポイントを的確に把握し、授業改善を図る。
 - 言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力等を育てる。
 - 子どもが頑張ったことを紹介する場を設定する。
- (2) 特別支援教育の視点を大切にしたい、子どもの気持ちに寄り添った児童理解に基づく学級づくりを行う。《合理的配慮の充実》**
- 特別支援教育の視点を大切にしたい ICT 活用による分かりやすい授業づくりを行う。
 - 子どもが「やりたくなる」場と言葉かけを大切にしたい目標づくりを行う。
 - 「できない」と思うのではなく、「できるかも」と思って取り組む活動づくりを行う。
 - 「我慢」や「折り合い」の体験を通して「群れ」から「集団」に育てる。
- (3) 教師としての資質・能力を高めるとともに、組織の充実を図る。《チーム社小》**
- 現在の教育課題を把握し、適正に対応しようと努力する。
 - 報告・連絡・相談に努め、問題行動等に組織で対応する。
 - 個々の校務分掌を的確に遂行するとともに、教職員全員が協力して機動的に対応できる組織の構築に貢献する。
- (4) 児童理解に基づく生徒指導体制を確立する。**
- 声かけへの反応からの把握、学習状況や提出物等からの把握に努める。
 - 遊びによるふれあいの推進により、変化の早期発見に努める。
 - 学年会を大切にしたい、情報交換を行うとともに、手立てや児童の変化についても交流する。
 - 頑張らせるポイントを全職員が共通理解し意図的に指導する。
 - hyper-QU 等を活用し、児童理解に努めるとともに、よりよい学級集団づくりを行う。
- (5) 学びや育ちを支える環境の充実を図る。**
- 「できるチャンスがあればやろう」という気持ちを大切にしたい。
 - 子どもが「こだわった点」「見てほしかった点」に触れたコメントを返す。
 - 評価・各種カード・ヒント集等により、基礎環境を整える。
 - 学んだり、話し合ったりするために必要な情報をわかりやすくする。(ユニバーサルデザイン)
 - 合意形成するための話し合い方や手順をパターン化する。
 - 「教職員定時退勤日」の完全実施により、ワーク・ライフ・バランスを実現させるとともに、児童と向き合う時間の確保に努める。
- (6) 小小連携や小中連携、地域・家庭との連携を深め、教育力の向上に努める。**
- 義務教育 9 年間を見通した「カリキュラム・マネジメント」に取り組み、教育力の向上に努める。
 - 小中教師による出前授業等を通して、児童・生徒理解に努めるとともに、学力の定着に向けて授業改善を図る。
 - 子どもの頑張りを家庭に伝え、保護者から承認や称賛をしてもらえるようにしたい。
 - 学校・家庭・地域の中で、あいさつやふれあい体験、福祉活動・奉仕活動を重ねることによって、子どもを取り巻くあたたかな環境づくりに努める。
 - 学校と家庭が連携し、「自主学習の手引き」の効果的な活用による学習習慣・生活習慣の定着を図る。
 - 社小学校「くらしのやくそく」の意識化及び実践の徹底を図る。